

# 資料編

# 1 月刊文化財（713号）令和5年2月発行「新選定の文化財—文化的景観—」

## 緒方川と緒方盆地の農村景観 大分県豊後大野市

大分県南西部に位置する豊後大野市は、北西に、くじゅう連山、西に阿蘇火山、南に祖母山、傾山を配する山間部にある。市中央部には、阿蘇火山の噴火による火砕流が堆積した溶結凝灰岩が覆う丘陵（標高約100～300メートル）が広がる。その中を上記の山々の水を集める大野川が流れ、大分市を経て別府湾に注ぐ。

緒方町は、市域の西部南半を占め、西を竹田市、南を宮崎県高千穂町と接する。大野川とその支流である緒方川は、3市町にまたがる祖母山を源流とし、竹田市を経て、町北部を東流し北東端で合流する。流域では両岸に断崖を連ね、台地や迫が発達する丘陵地を広げるが、緒方川は溶結凝灰岩の弱溶結部を侵食し、三段の段丘をもつ緒方盆地を生み出した。さらに緒方川は強溶結部を崩落させ、原尻の滝とその下流に柱状節理が露出する絶壁を形成した。段丘面は、大野川上・中流域で希少な広い平地であるが、他所と同様に川の水面との高低差が大きく引水が困難で、滝上流から取水する水路を発達させる要因となった。

緒方の地名は、『和名類聚抄』に初出する。6世紀代には緒方川支流の流域に横穴墓が造営されることから、この頃に迫田の開発が始まったと考えられている。古代の緒方川流域は、豊後国大野郡に属し、低位段丘の一部に支流の軸丸川等の水を引く条里地割をもつ水田が開かれたとされる。また、宇佐八幡宮の荘園であった緒方荘が設定され、平安時代末期には、荘司の緒方三郎惟栄の統治のもと、低位段丘を潤す現在の緒方下井路の原型が開削されたと考えられている。惟栄の失脚後は、大友氏が緒方荘政所を設け、流域を支配した。

近世の大野川上・中流域は、岡藩に属した。岡藩により、中位段丘を潤す水路が丘陵際に開削され、緒方盆地は藩屈指の稲作地帯となり、藩主が見物する御覧田植も行われた。民家は水路より高所に移転させられ、水田面積の確保が図られた。一方、丘陵地では畑が営まれ、大豆は藩の特産品とされた。

近世に多くの村で構成された現在の緒方町は、平成17年（2005）に豊後大野市となる以前の旧町の名称と範囲を引き継ぐ。旧町は、近代に緒方村を経て、昭和25年（1950）に発足し、合併を重ねた後、同32年に町域を確定した。

明治時代にも緒方盆地は県南部の米所で、材木、椎茸、蚕繭等の生産が盛んであった。明治から昭和初期には、井路組合により、大野川や緒方川の上流等から取水する長距離水路が丘陵上に整備され、高位段丘と丘陵地に棚田が築かれた。さらに、水路に水車を設けてより高所に水田を拡大し、鍛冶屋を招いて生産性の向上も図られた。現在、耕作者の減少や高齢化等の課題を抱えるが、昭和40年代以降の圃場整備と機械化等を経て、農業を主産業とし、米を中心にピーマン、大麦、飼料用作物、大豆等の生産が盛んに行われている。

大正11年（1922）には、大分駅より犬飼線（現・豊肥本線）が延伸し、緒方駅が開業し、北側には県道も整備された。明治44年（1911）竣工の緒方橋を嚆矢に、駅開業後は水害に強い多連アーチ式石橋が次々に建設され、交通網が発達し、交通・物流の拠点となった。県道沿いには商店街が並び、昭和7年には駅北側に緒方村役場、同10年には駅南部の水田に緒方尋常高等小学校（現・緒方小学校）が移設新築された。戦後も駅南部に公共・文教施設、病院、商業施設等が敷地を広げ、国道も開通し、今日に至る市街地が形成された。

当地では、このような自然的、歴史的環境を生かし、平成11年の日本の棚田百選への選定や同

25年の日本ジオパークへの認定等を弾みとして、地域活性化が図られ、文化的景観の保護へ、その取り組みを進展させている。

「緒方川と緒方盆地の農村景観」として、重要文化的景観に選定しようとするのは、緒方町北部の約1416ヘクタールの範囲で、緒方盆地地域、その北西に位置する軸丸<sup>じくまる</sup>棚田地域、緒方盆地地域の中央部に位置する市街地地域からなる。

緒方川は、範囲西部に位置する原尻の滝（幅約120メートル、落差約20メートル）を境に、北から東に流れを変え、南北に段丘を開き、さらに北に流れを変える。域内の水田は、緒方川とその支流を中心に取水する15本の水路により灌漑<sup>かんがい</sup>される。段丘上には近代に開削された水路が、緒方川と平行して走る。水路は立体交差して水位を保って水を運ぶ一方、ほかの水路へ補水し、増水時には速やかに緒方川へ排水する機能をもつ。また、水路網は溶結凝灰岩に対する時代ごとの土木技術を伝える。近世の石造の水門や谷に水路を渡す高石垣<sup>たかいしがき</sup>、矢穴<sup>やあな</sup>や板堰<sup>いたぜき</sup>の柱穴<sup>ちゅうけつ</sup>のある取水口、手掘りの隧道<sup>ずいどう</sup>、近代の石樋<sup>いしどい</sup>、発破<sup>はつぱ</sup>のため硝煙を詰める長ノミ跡のある川床や隧道、石造の水路橋、サイフォンの仕組み等が残る。水利施設の多くは石碑等を伴い、開削・改修時の先人の知恵と苦勞を伝える。今も、井路組合等が井路普請<sup>いろうふしん</sup>等を続けている。

緒方盆地地域は、緒方川兩岸に、段丘上の水田、丘陵際の水路与集落、丘陵に連なる樹林地という土地利用を広げる。寛文元年（1661）竣工の緒方上井路<sup>うわいろ</sup>等の水路には丘陵側より多くの敷地が面し、集落内からも水田への眺めが得られる。水路には「汲ん場」と呼ばれる洗い場が多数設けられ、昭和初期以降に水道が普及するまでは炊事洗濯に、現在は農具の清掃や防火用水に用いられる。段丘崖には、緒方氏の造立と伝わる磨崖仏、中世から近世に多く築造された石風呂が継承され、信仰や文化が地形や地質と密接に関わってきたことを伝える。古代の条里地割は圃場整備で失われたが、近世の区割りを残す田もある。

軸丸棚田地域は、丘陵地にあり、北端は蛇行する大野川沿いに断崖が連なる。軸丸川とその支流が小谷を開き、ここからさらに迫を延ばす。迫は、尾根の下を流れる地下水により形成される。地下水はイノコと呼ばれる湧水地で湧き出し、古来、飲み水や迫田の灌漑用水とされた。大正3年の富士緒井路の完成前からの迫田は「古田」、完成後に開かれた田は「新田」と呼ばれるが、現在はいずれも水路により灌漑される。川から尾根に向かい、古田、新田、丘陵上の水路、樹林地という土地利用が連なる。集落は新田より高所に、墓地や祠は丘陵上に点在し、迫ごとに尾根に迫る棚田を見下ろすことができる。

市街地地域は、緒方川左岸に位置し、豊肥本線以南の大規模な施設群を中心とする。施設の敷地内外を流れる緒方下井路が、水田の転用を含めた発展を伝える。低層の建物を基調とし、駅北側の丘陵中腹に建つ旧緒方村役場からは、市街地と田園を走る鉄道を含めて盆地を一望できる。

緒方盆地地域、軸丸棚田地域においては、共通した特徴も多くみられる。農家住宅の多くは、南向きの庭に面して直屋<sup>すごや</sup>の主屋に付属屋を並べ、敷地の高所に墓地を置く。「落とし小屋」と呼ばれる付属屋は、傾斜地盤を生かした下層に堆肥舎をもつ牛舎で、倉庫や車庫として数多く残される。斜面中腹には、緒方氏由来の緒方一宮、二宮、三宮八幡社からなる緒方三社を始め、社寺が置かれる。樹林地は、椎茸が栽培されるクヌギ林を主とし、かつて薪炭林、施業林であったアラカシ、杉や檜の林も残り、今に至る里山の利用を伝える。

緒方三社の祭礼である川越し祭り、虫送りの盆行事である小松明火祭りに加え、比較的新しい緒方五千石祭や井路祭りも、豊作を願い水への感謝を表す。神楽、獅子舞、水路の補修作業を芸術化した千盆搗とともに、地域で継承される。

「緒方川と緒方盆地の農村景観」は、大分県南西部の阿蘇火山由来の溶結凝灰岩が覆う丘陵地帯にあって、川の水面との大きな高低差を克服し、稲作地帯として発展を遂げてきた農村の変遷を伝える。特に、河岸段丘における近世までに開削された水路、丘陵地における湧水による迫田と近代に開削された長距離水路は、水田開発の過程を伝える。発展の過程では、人々が時代ごとの技術で溶結凝灰岩を生かし、文化や信仰を育んできたことを、水路網等の多様な要素が伝える。また、川、水田、集落、樹林地が連なる土地利用は、河岸段丘が緒方川流域の政治経済の中心であり続ける中で、発展のためにこれを制御してきた人々の知恵と努力を伝え、原尻の滝と緒方川、遠景の祖母山や傾山等の自然とともに美しい眺めを与える。このような特徴は、水利や祭礼等の伝統的な営みに根差した地域の強い紐帯により継承されてきた。総じて、大分県南西部の溶結凝灰岩地帯における水路開削による農村の変遷を伝える文化的景観として、当該地域に希有な河岸段丘が流域の拠点的役割を果たしてきたことを表し、かつ、その周辺において丘陵地の棚田開発の典型を伝える点で、貴重である。

## 2 地域住民アンケート結果まとめ

### (1) 調査方法

選定範囲内の居住者が対象。

配布枚数 450 票を 17 の行政区の世帯数で案分して行政区ごとに配布人数を決定。

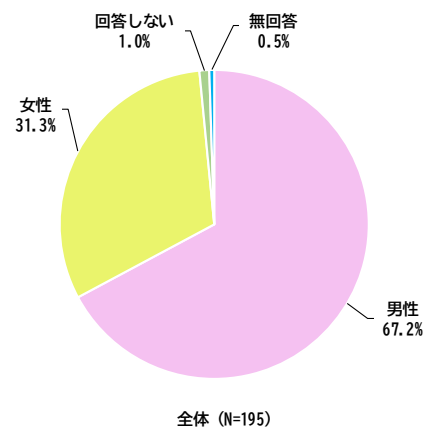
回収数 195 票、回収率 43.3%。

調査期間は、令和 6 年 9 月 1 日～令和 6 年 11 月 15 日。

### (2) 設問別の結果

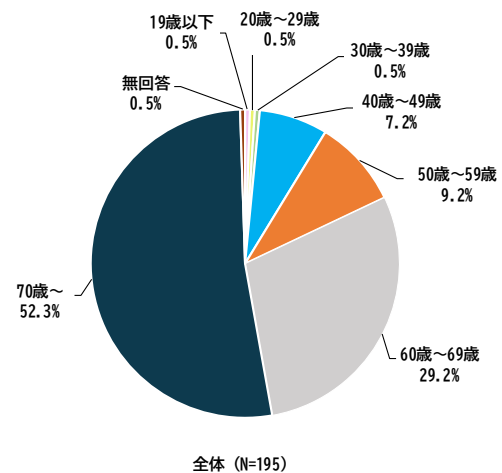
#### ■ 回答者属性 (問 1)

- ・性別としては、「男性」が 67.2%、「女性」が 31.3%、「回答しない」が 1.0%となっています。



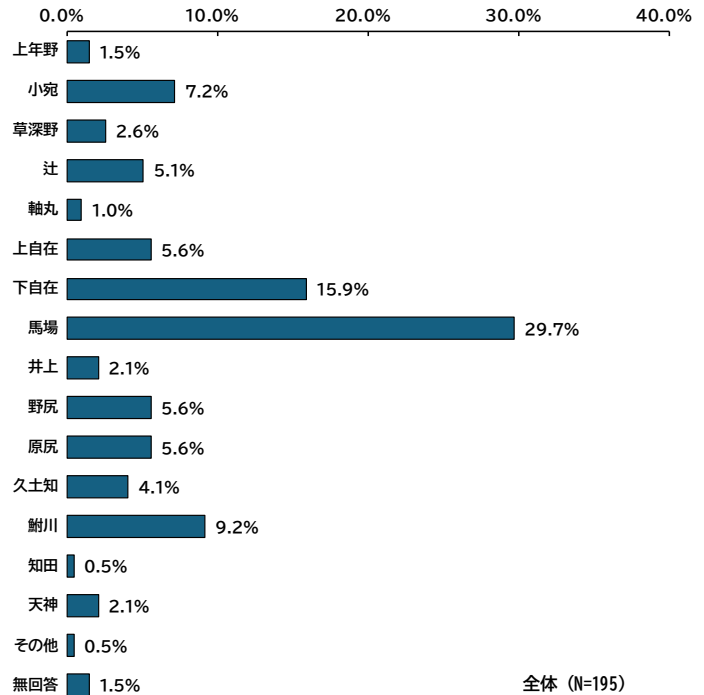
#### ■ 年齢構成 (問 2)

- ・年齢別としては、「70 歳～」が 52.3%と最も多く、次いで「60 歳～69 歳」が 29.2%、「50 歳～59 歳」が 9.2%、「40 歳～49 歳」が 7.2%となっています。



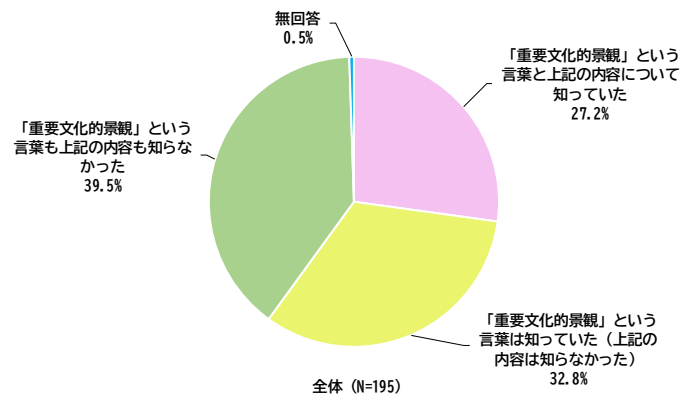
### ■ 居住地区（問3）

・居住している地域としては、「馬場」が29.7%と最も多く、次いで「下自在」が15.9%、「鮎川」が9.2%、「小宛」が7.2%となっています。



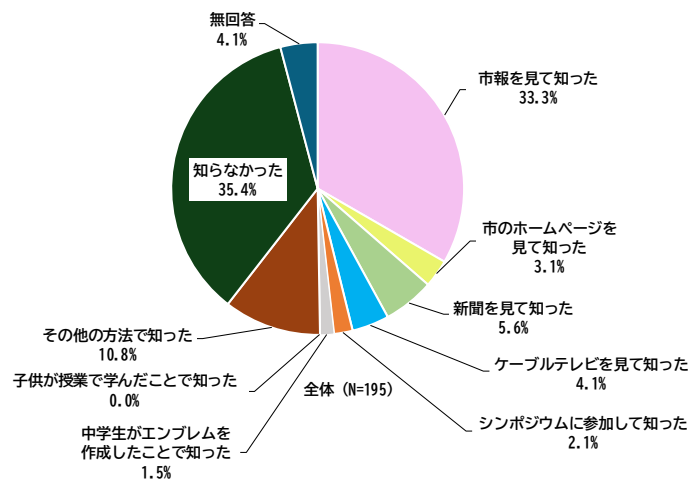
### ■ 重要文化的景観の認知状況（問4）

・「重要文化的景観」という言葉については、「重要文化的景観」という言葉と上記の内容について知っていた」が27.2%、「重要文化的景観」という言葉は知っていた（上記の内容は知らなかった）」が32.8%、「重要文化的景観」という言葉も上記の内容も知らなかった」が39.5%となっています。



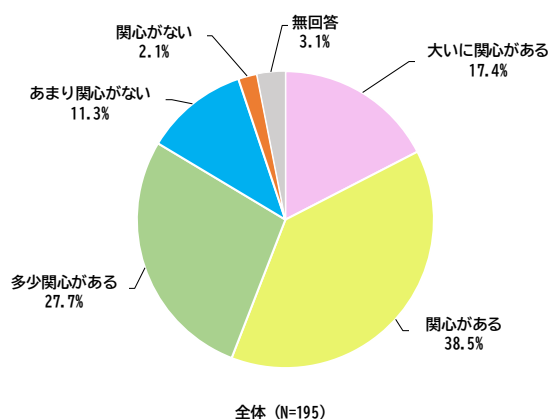
### ■ 「緒方川と緒方盆地の農村景観」が「重要文化的景観」に選定されていること（問5）

・「重要文化的景観」に選定されていることについては、「市報を見て知った」が33.3%と最も多く、次いで「その他の方法で知った」が10.8%となっています。また、「知らなかった」は35.4%となっています。



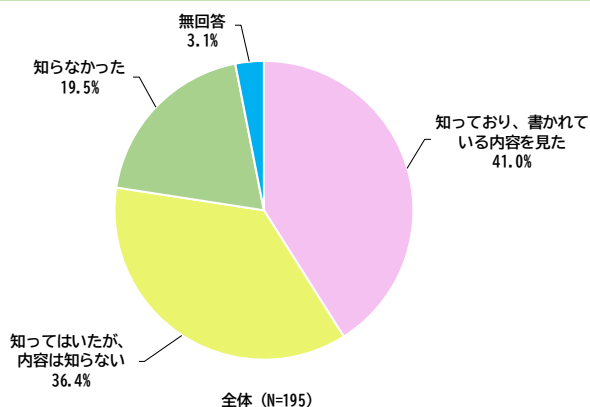
### ■「緒方川と緒方盆地の農村景観」に対する興味・関心（問6）

・「緒方川と緒方盆地の農村景観」に対する興味・関心としては、「大いに関心がある」が17.4%、「関心がある」が38.5%、「多少関心がある」が27.7%となっており、これらを合計した『関心がある』は83.6%となっている。一方、『関心がない』は13.4%（「あまり関心がない」11.3%+「関心がない」2.1%）となっています。



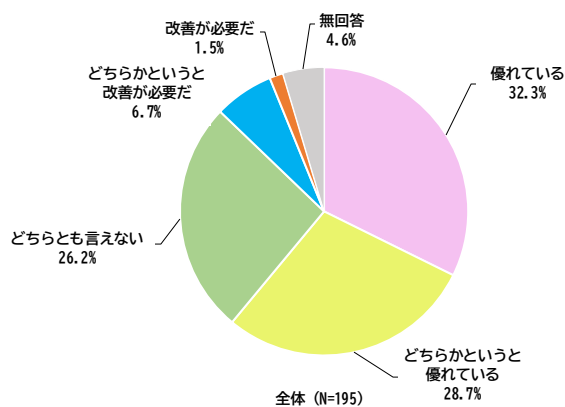
### ■案内板等の設置について（問7）

・市が令和5年度より道路や井路沿い、景観を形づくる建造物に案内板等を設置していることについては、「知っており、書かれている内容を見た」が41.0%、「知ってはいたが、内容は知らない」が36.4%、「知らなかった」が19.5%となっています。



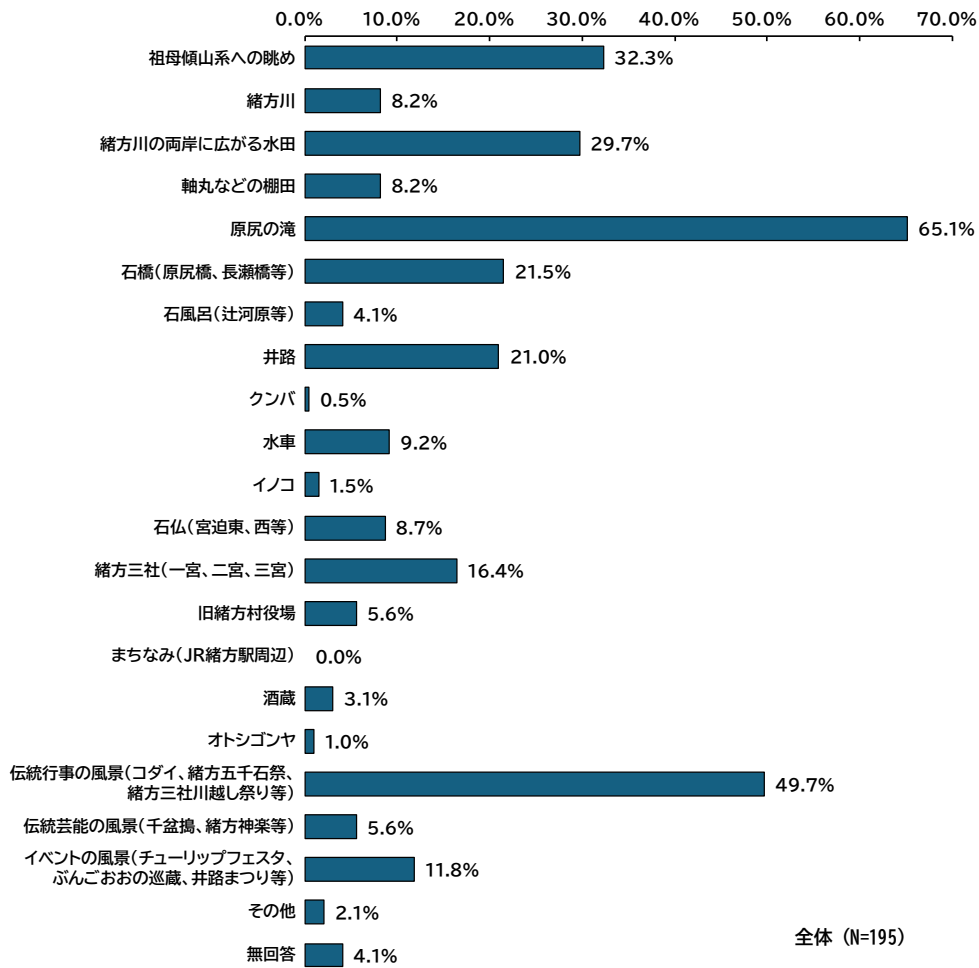
### ■緒方川と緒方盆地の農村景観に関する印象（問8）

・「緒方川と緒方盆地の農村景観」についての印象としては、「優れている」が32.3%、「どちらかというと優れている」が28.7%、これらを合計した『優れている』は61.0%となっています。また、「どちらとも言えない」が26.2%、『改善が必要』が8.2%（「どちらかというと改善が必要だ」6.7%+「改善が必要だ」1.5%）となっています。



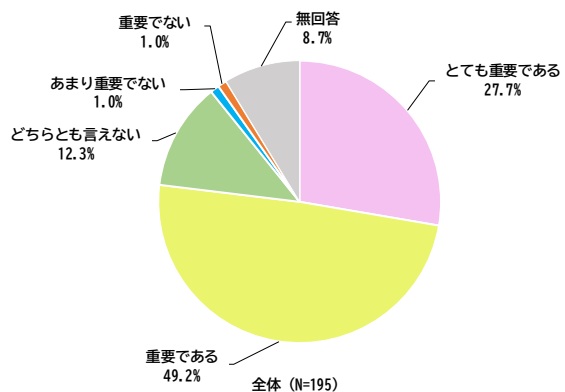
### ■人に勧めたい緒方川と緒方盆地の農村景観（問9）

・誇りや郷土愛を感じ人に勧めたい景観としては、「原尻の滝」が 65.1%と最も多く、次いで「伝統行事の風景（コダイ、緒方五千石祭、緒方三社川越し祭り等）」が 49.7%、「祖母傾山系への眺め」が 32.3%、「緒方川の両岸に広がる水田」が 29.7%となっています。



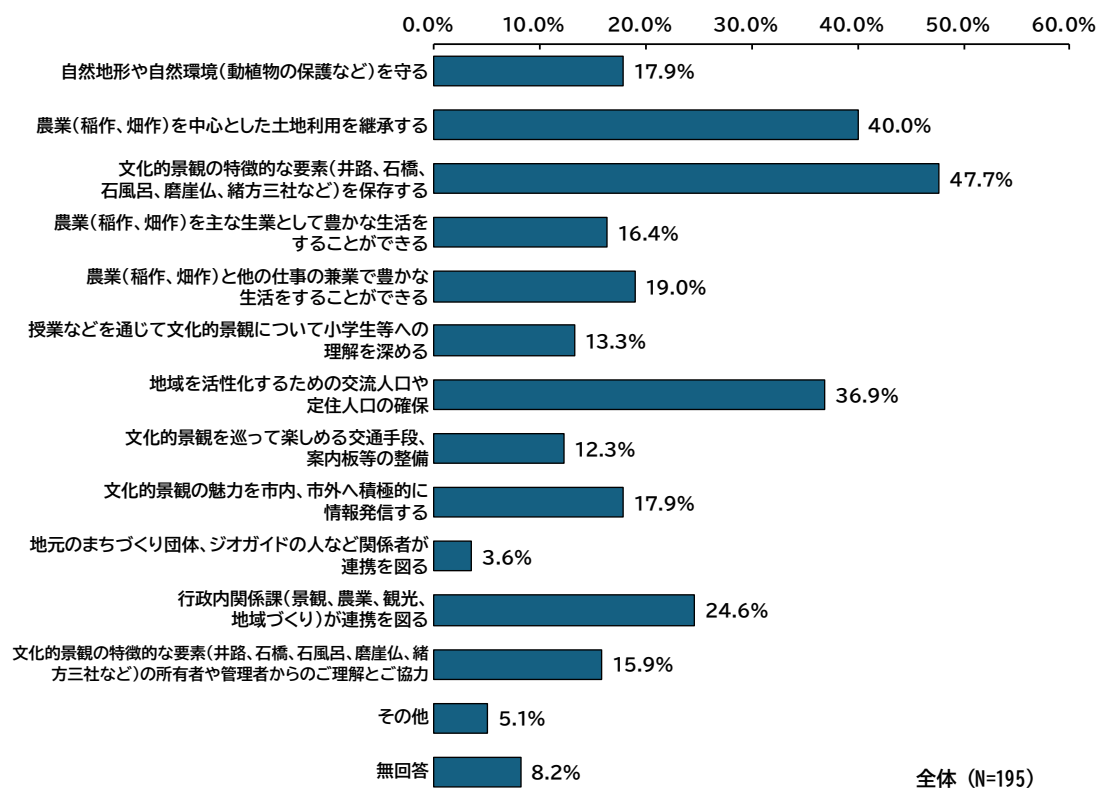
### ■農村景観を良くしていくことの重要度（問10）

・農村景観を将来にわたりより良くしていくことの重要性については、「とても重要である」が 27.7%、「重要である」が 49.2%、これらを合計した『重要』は 76.9%となっています。また、「どちらとも言えない」が 12.3%、「あまり重要でない」と「重要でない」が各 1.0%となっています。



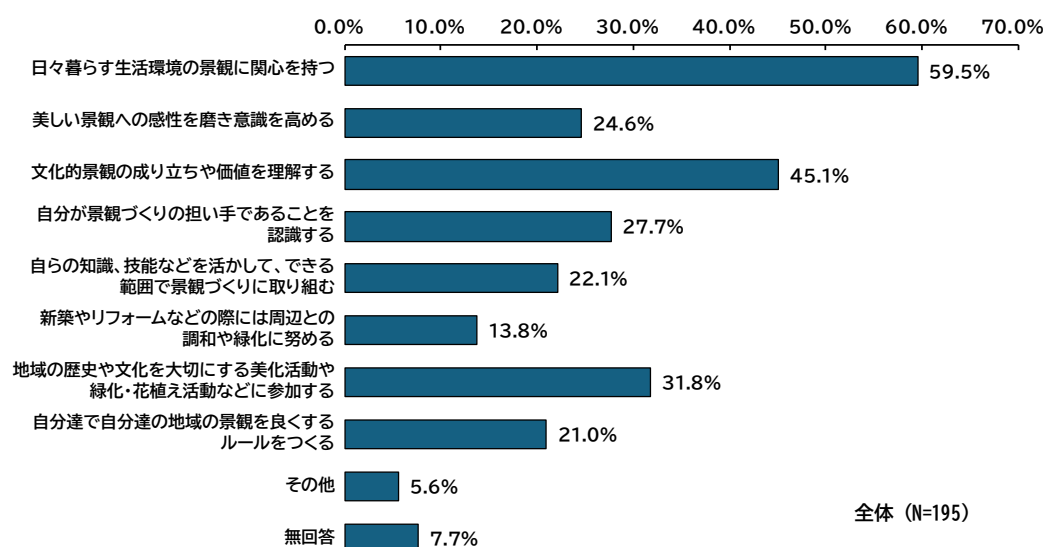
## ■ 景観をより良くするための取り組み（問 11）

・農村景観をより良くするための取組としては、「文化的景観の特徴的な要素（井路、石橋、石風呂、磨崖仏、緒方三社など）を保存する」が47.7%と最も多く、次いで「農業（稲作、畑作）を中心とした土地利用を継承する」が40.0%、「地域を活性化するための交流人口や定住人口の確保」が36.9%となっています。



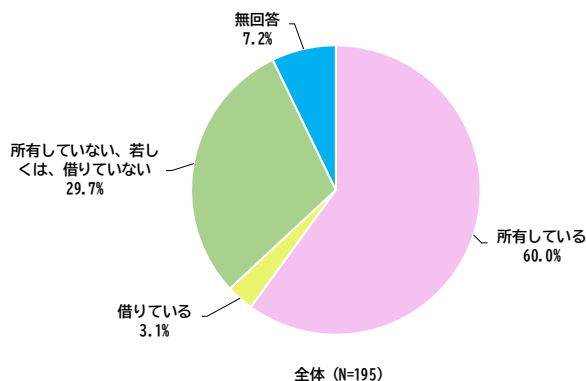
## ■ 地域住民の役割（問 12）

・農村景観をより良くするための地域住民の役割としては、「日々暮らす生活環境の景観に関心を持つ」が59.5%と最も多く、次いで「文化的景観の成り立ちや価値を理解する」が45.1%、「地域の歴史や文化を大切にする美化活動や緑化・花植え活動などに参加する」が31.8%となっています。



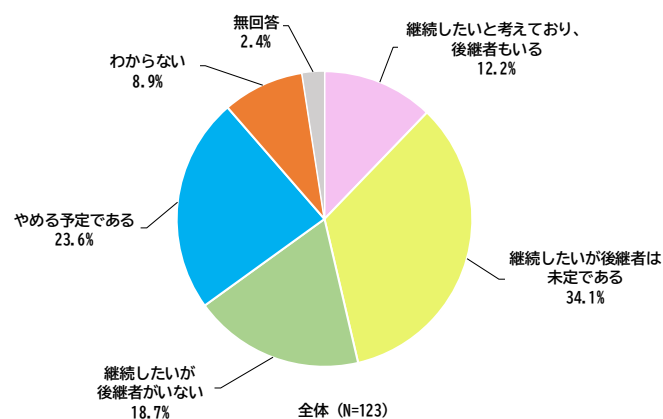
### ■農地（稲作、畑作、休耕田等）の所有状況（問 13）

・農地（稲作、畑作、休耕田等）の所有状況としては、「所有している」が60.0%、「所有していない、若しくは、借りていない」が29.7%、「借りている」が3.1%となっています。



### ■農業の継続意向（問 14）

・農業については、「継続したいが後継者は未定である」が34.1%と最も多く、次いで「やめる予定である」が23.6%、「継続したいが後継者がいない」が18.7%、「継続したいと考えており、後継者もいる」が12.2%、「わからない」が8.9%となっています。



### ■問 14 で後継者もいる以外の回答者の理由（問 15）

問 14	主な意見
継続したいが後継者は未定である (42人、34.1%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが緒方以外で居住。</li> <li>・農業は生産性が低く、食べていけない。</li> <li>・農業厳しい（高齢化による体力衰え、獣害、水路や草刈りなど田畑の維持管理）。</li> <li>・農機具が高額で購入困難。</li> </ul>
継続したいが後継者がいない (23人、18.7%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが緒方以外で居住。</li> <li>・農業は生産性が低く、食べていけない。</li> <li>・希望者がいれば貸したい。</li> <li>・小作をお願いしている。</li> </ul>
やめる予定である (29人、23.6%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが緒方以外で居住。</li> <li>・兼業での管理が困難。</li> <li>・農業は生産性が低く、食べていけない。</li> <li>・農機具が高額で購入困難。</li> <li>・後継者いるが農業に魅力を感じていない。</li> <li>・肥料、農薬の購入費高騰。</li> <li>・近年の気候条件の変化（猛暑など）。</li> </ul>
わからない (11人、8.9%)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農機具が高額で購入困難。</li> <li>・水利用の加入権等が高額。</li> </ul>

■ にとっておきの身近な風景（問 16）

- ・回答者意見をカウントしています。なお、複数の項目を回答している回答者が多数有ります。
- ・遠望できる山への眺望（祖母傾山系、久住山系など）との意見が多く挙げられています。
- ・次いで緒方盆地や水田など田園風景への意見が多く挙げられています。
- ・また、原尻の滝や緒方川への意見も多くみられました。
- ・伝統行事としてはコダイ（小松明）が多く挙げられています。
- ・特徴的な意見として、四季で表情が変化する水田の風景、夕焼け、朝焼けなどの自然現象が挙げられます。

項目	視対象
山	(50) 祖母傾山系、(25) 久住山系、(7) 阿蘇山系、(3) 由布岳・鶴見岳、 (1) 姫岳、(1) 尺間山
田園・田	(40) 緒方盆地、(8) 水田、(4) 軸丸棚田、(4) 春の田（苗）、 (4) 秋の田（黄金）、(2) 夏の田（緑）、(1) 満月と軸丸棚田、 (1) 棚田、(1) 冬の田（雪景色）
滝・川・井路等	(15) 原尻の滝、(6) 緒方川、(2) 水車、(2) 井路、(1) 荒平の池
石橋・石仏	(7) 石橋、(2) 石仏
建物・神社等	(1) 旧緒方村役場、(1) 二宮八幡社、(1) 三宮八幡社、(1) 岡城跡、 (1) 酒蔵
花	(5) JR 沿い桜並木、(1) チューリップ、(1) 彼岸花
自然現象	(5) 夕焼け、(2) 霧、(2) 初日の出、(1) 朝焼け
伝統行事	(5) コダイ（小松明）、(1) 緒方三社川越し祭り
その他	(1) 電车道

### 3 児童生徒へのアンケート結果まとめ

#### (1) 調査方法

豊後大野市緒方学園の4年生～9年生（111名）を対象にアンケートを実施した。

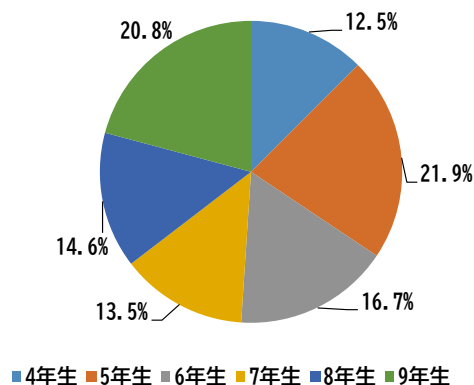
タブレットにより回答する形式で実施した。

調査期間は、令和6年9月2日から令和6年9月30日で、回収数96名、回収率86.5%となった。

#### (2) 設問別の結果

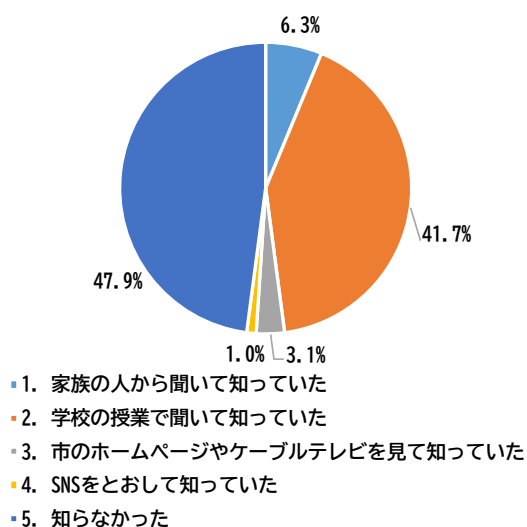
##### ■ 学年について（問1）

- ・回答者の学年としては、4年生から9年生まで、概ねバランス良く回答しています。



##### ■ あなたは緒方川の両岸や丘陵地（山沿い）に広がる水田や棚田、井路や石橋などを見ることが出来る景色が国の重要文化的景観に選ばれたことを知っていましたか？（問2）

- ・「重要文化的景観」に選定されていることについては、「2. 学校の授業で聞いて知っていた」が41.7%と最も多く、次いで「1. 家族の人から聞いて知っていた」が6.3%となっています。また、「5. 知らなかった」は47.9%となっています。



■あなたが1番好きな緒方の景色を教えてください。(問3)

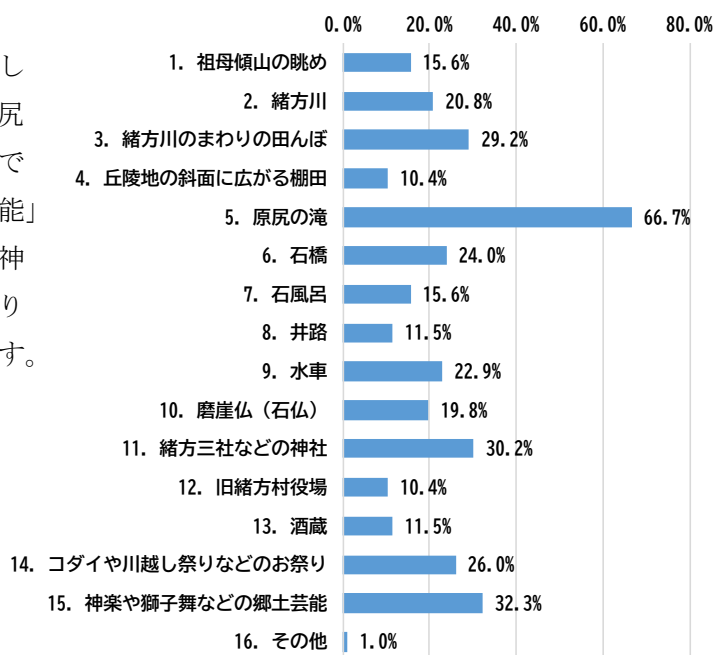
例) ○○(場所)から見える●●の景色、 △△地区の家沿いを流れる井路の景色 など

- ・回答者意見をカウントしています。
- ・原尻の滝との意見が圧倒的に多く挙げられています。
- ・次いで、田との意見が多く挙げられています。

項目	視対象
山	(2) 祖母傾山系、(2) 山
田園・田	(15) 田、(2) 緑、(1) 棚田
滝・川・井路等	(56) 原尻の滝、(4) 井路、(3) 川、(2) 水車
石橋・石仏	(3) 石橋、(1) 磨崖仏
建物・神社等	(1) 旧緒方村役場、(1) 三宮八幡社
花	(4) 桜
自然現象	(2) 夕焼け
伝統行事	(1) コダイ(小松明)

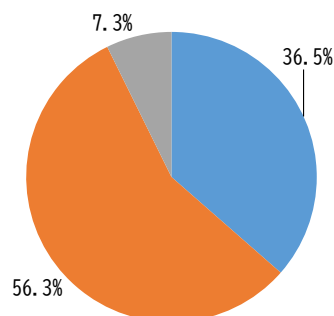
■あなたが「初めて緒方に来る人」にオススメしたい場所、モノは何ですか？(問4)

・「初めて緒方に来る人」にオススメしたい場所、モノとしては、「5. 原尻の滝」が66.7%と最も多く、次いで「15. 神楽や獅子舞などの郷土芸能」が32.3%、「11. 緒方三社などの神社」が30.2%、「3. 緒方川のまわりの田んぼ」が29.2%となっています。



■あなたは緒方の景色にどのような気持ちを持っていますか？(問5)

・緒方の景色への気持ちとしては、「2. 普通」が56.3%と最も多く、次いで「1. みんなに自慢したい」が36.5%、「3. 別になんとも思わない」が7.3%となっています。



■ 1. みんなに自慢したい ■ 2. 普通 ■ 3. 別になんとも思わない

## 4 重要な構成要素アンケート結果まとめ

### (1) 調査方法

重要な構成要素の所有者、管理者（国・県及び市は除く）42件を対象に調査した。  
調査期間は、令和6年9月1日から令和6年11月15日である。

### (2) 調査結果

表 対象とした重要な構成要素

区分	管理番号	重要な構成要素名称	区分	管理番号	重要な構成要素名称
井路	井-1	長淵井路	井路	井-10	緒方下井路
	井-1-1	長淵井路隧道		井-10-1	緒方下井路深町放水門
	井-2	平瀬井路		井-10-2	緒方下井路鉢ノ久保放水門
	井-3	広瀬井路		井-11	南井路
	井-3-1	広瀬井路隧道		井-12	唐人井路
	井-4	原尻古井路		井-13	三区(野仲)井路
	井-4-1	原尻古井路碑		井-13-1	野仲井路橋
	井-5	原尻新井路		信-1	一宮八幡宮
	井-5-1	原尻新井路久土知支線分岐 隧道	信-2	二宮八幡社	
	井-8	緒方上井路	信-2-1	二宮八幡社大鳥居	
	井-8-1	緒方上井路磨崖仏	信-2-2	二宮八幡社参道橋	
	井-8-2	緒方上井路地獄水門石割碑	信-3	三宮八幡社	
	井-8-3	緒方上井路石樋排水門と石垣	信-3-1	三宮八幡社参道橋	
	井-8-4	緒方上井路石樋石碑	信-3-2	宮田	
	井-8-5	大久保川(黒土甲川)架樋	信-3-3	三反畑板碑	
	井-8-6	高石垣	信-6	田尾の横穴墓と 磨崖宝塔・五輪塔	
	井-8-7	高石垣ノ石樋之碑	民-1	辻河原石風呂	
	井-8-8	高石垣下隧道	民-2	上戸石風呂	
	井-8-9	首藤家水車	民-3	原の石風呂	
	井-9	富士緒井路	屋敷地	家-1	まちの鍛冶や
井-9-1	富士緒井路神明線の隧道	家-2	後藤家オトシゴンヤ		

●井路関連

設問	主な意見
1. 重要な構成要素の維持管理における現状の問題点や将来における不安なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経年劣化施設の老朽化や危険を伴う箇所。</li> <li>・台風大雨、災害を原因とした損壊崩落。</li> <li>・高齢化、後継者・農業者減少に伴い日常的な維持管理、井路普請を担う体制が弱体化。</li> <li>・費用負担。</li> </ul>
2. 重要な構成要素の修理・修景において早急に対応すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頭首工の改良。</li> <li>・河川取水口(岩盤)の掘り下げ。</li> <li>・井路の老朽化や山間部の崩落危険箇所の対策。</li> <li>・大雨、台風等の河川からの土砂、ごみ等の流入があるため、その防止対策。</li> <li>・周辺の木、竹の草刈りや伐採。</li> <li>・排水対策。河川の浚渫(しゅんせつ)。</li> <li>・落ち葉流入防止のための水路蓋掛け。</li> <li>・景観を活かした工法での改修。</li> <li>・U字溝の目地塗り、嵩上げ。漏水対策。</li> </ul>
3. 重要な構成要素の修理・修景において「いずれ必要となるもしくは想定される修理内容」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井路の老朽化による水漏れ。</li> <li>・用水路の損壊崩落。</li> <li>・現在ある石積の水路等は全てコンクリート製品等の構造物による工法となり、景観も生態系も変わってしまう。</li> <li>・水路表面への被覆資材を使用した工法で長寿命化を図る。</li> <li>・山間部の方では水路への蓋掛けの検討。</li> </ul>
4. 重要な構成要素の「活用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井路探検。スタンプラリー。</li> <li>・学校教育への活用(辻河原石風呂を含め)。</li> <li>・日常から水路への関心向上(桜や花木等の植栽)</li> <li>・日常の維持管理のための水路管理道路整備。</li> <li>・地域社会全体での維持保全すべき施設との認識向上。</li> <li>・水路沿いの管理道遊歩道の整備、美化。</li> <li>・清掃活動。井路祭り。</li> </ul>

●信仰関連（緒方三社等）

設問	主な意見
1. 重要な構成要素の維持管理における現状の問題点や将来における不安なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・瓦及びその基礎部分(木材)の劣化が激しく、数年のうちに修理、瓦の葺き替え必要。</li> <li>・地震による崩壊に対し、復旧費負担は地元だけでは対応不可。</li> <li>・神輿の担ぎ手がない。</li> </ul>
2. 重要な構成要素の修理・修景において早急に対応すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参道の階段の改修、工事（三宮八幡社）。</li> </ul>
3. 重要な構成要素の修理・修景において「いずれ必要となるもしくは想定される修理内容」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参道の階段の改修、工事（三宮八幡社）。</li> </ul>
4. 重要な構成要素の「活用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキングコースのポイントに（三宮八幡社）。</li> </ul>

●民俗、屋敷地関連（石風呂、後藤家等）

設問	主な意見
1. 重要な構成要素の維持管理における現状の問題点や将来における不安なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石風呂の体験回数を増やせない。また、セキショウ(薬草)の採取が困難（辻河原石風呂）。</li> <li>・高齢化により、また、後継者も大分在住のため、所有者の本家及び牛舎の維持管理が手つかずの状況（後藤家オトシゴンヤ）。</li> </ul>
2. 重要な構成要素の修理・修景において早急に対応すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水道設備(今現在飲料水として使用できない)、電灯の整備（辻河原石風呂）。</li> <li>・旧牛小屋そのものが古く、今後、安全が不安視（後藤家オトシゴンヤ）。</li> </ul>
3. 重要な構成要素の修理・修景において「いずれ必要となるもしくは想定される修理内容」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・台風などの水害で施設が水没する割合が多い（辻河原石風呂）。</li> <li>・豊後大野市空き屋バンクに登録。今後、売却が考えられる（後藤家オトシゴンヤ）。</li> </ul>
4. 重要な構成要素の「活用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・辻河原公園と石風呂を合わせた整備（辻河原石風呂）。</li> <li>・様々な行事での活用、学生の社会見学などでの使用後のシャワー設備整備（辻河原石風呂）。</li> <li>・事故が心配なのでそっとしておきたい（後藤家オトシゴンヤ）。</li> </ul>

## 5 ワークショップ実施概要

### (1) 調査方法

農業従事者、地域活動等に興味のある住民（9名）を対象。

実施期間は、令和6年10月26日～令和6年12月18日。計5回開催。

表 ワークショップ参加者の属性

	年齢区分	仕事または特性
1	40代	緒方在住地域おこし協力隊員
2	20代	観光協会、地域活動
3	40代	自営業
4	20代	緒方出身者
5	40代	農業従事者（法人代表）
6	40代	農業従事者（個人経営）
7	30代	自営業
8	30代	自営業
9	50代	緒方出身者

### (2) 調査結果

#### 第1回 WS 地区全体の魅力、現状、将来像（令和6年10月26日開催）

##### ●主な意見

緒方川と緒方盆地の農村景観の魅力	文化的景観の生業、地域文化の現状	こんな魅力のある地域にしたい！
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パチンコ屋などの景観を邪魔するものがなくて気持ちがいい</li> <li>・上自在、下自在、野尻と続く井路</li> <li>・地形、歴史（ストーリーを知らない人が多い、知ると誇りになる）</li> <li>・さわやかな（優しい）山の風景</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お米が心配、田に適した作物など</li> <li>・伝統行事は近年さみしい（昔は五千石祭は2日あった）</li> <li>・川越し祭りも外部から人を募っている</li> <li>・地区ごとの祭りも縮小化</li> <li>・農業の衰退により人がいなくなり、お祭りが今後なくなるのでは？</li> <li>・新しい人と地元の人が交わるイベントが必要では？</li> <li>・先祖祭りが面白い（例：後藤さんだけの家系図を見ながら懇親会）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原尻の滝で温泉を掘って、滝を見ながら温泉に入れる施設を作りたい</li> <li>→原尻の滝の集客力でもっと活性化させたい</li> <li>・観光農園（ビニールハウス）</li> <li>・どぶろく特区にする→お米を作っている方が多いので飲み比べもできる</li> <li>・憩いの場 子どもも遊べる</li> <li>・地域の方と交流できる仕組みづくり</li> <li>・飲食店がほしい（居酒屋兼コミュニティスペース）</li> </ul>

##### ●まとめ

ガストロノミーツーリズム（食文化）→美食ではなくストーリーを味わう

第2回 WS 原尻の滝周辺、上年野・牧原・辻エリア（令和6年11月2日開催）

●エリア別アイデア

道の駅原尻の滝周辺	二宮八幡社周辺空き地の活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チューリップフェスタがもっと盛り上がってほしい。</li> <li>・建物は今の景観を壊さないように。</li> <li>・屋根がある東屋があるといい。</li> </ul> <p>→道の駅で買ったものをそこで食べられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原尻の滝等で行うイベントは一回きりではなく地元の方が出来るようにしたい。</li> <li>・原尻の滝自体は良い。景観ポテンシャルはそれぞれ高いがインパクトがない。付加価値をつけるべき 遊覧あと一歩。</li> <li>・道の駅やよいが好き 家族で楽しめる。</li> <li>・チューリップまつり以外お金をあまり落とさない。ボランティアに頼りすぎてるイベントの改善。買う、食べる、体験するを基本に高千穂峡のカヌーのような。</li> <li>・柱状節理のPR。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神社の苔がよい。</li> <li>・周辺を散策できる可能性ある。通過型観光からお金を落とす仕組みを考える。レンタサイクル、お土産、飲食の充実 滞在時間を増やす工夫。</li> <li>・朝市や餅つき、テーブルだけの直売所。</li> <li>・みんなでラジオ体操。チャレンジショップ。</li> <li>・情報をすべてそこに集める(ジオなど)。移動図書館。</li> <li>・憩いの場なのか？お金が回る場所なのか？→目的によって活用方法は変わる！</li> <li>・神社とつながるもの考える。(絵馬、おみくじ場 お年寄り用お参り所等)</li> <li>・お土産など。(せんべいやまんじゅうを販売)</li> <li>・この場所を知らない。原尻の滝までで完結。</li> <li>・お祭りの時に余韻に浸るなど、甘酒やなにかか振舞って居場所に。出店とか。</li> <li>・建物は管理が付きまとうのでNG。</li> </ul>

●整備・活用のテーマ、コンセプト

「石の上にも90000年のまち」

→井路、石風呂、石橋、自然の風化、原尻の滝、道の駅

食にフォーカスを当てるのもあり？(ガストロノミーツーリズム！)

→石焼の料理、石焼いも 石のアクティビティ、生活、風景

第3回 WS 緒方市街地周辺、井上・野尻エリア（令和6年11月30日開催）

●エリア別アイデア

緒方市街地周辺エリア	井上・野尻エリア
<p>○旧緒方村役場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚式、パーティー開催</li> <li>・半日ぼーっとする空間</li> <li>・自分歴史写真館</li> </ul>	<p>○旧観光案内所+焼肉屋</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光案内拠点</li> <li>・焼肉屋の復活</li> </ul>

●整備の方向性

・付加価値が大切、可能性はどこにある？

・緒方は原風景、暮らしを通し、「よし、明日も頑張ろう！」と思えるまち

・畏怖、畏敬（自然を敬う、人は生かされている）

・緒方に来ると、ありがたい、勇気もらえる、気付ける！→付加価値

→苦労は買ってでもする→多様な拠点を巡る→サイクリングコース（名称アイデア：井ロード）

コースは地元の人が考える。

第4回 WS 軸丸棚田エリア（令和6年12月7日開催）

●軸丸棚田エリアの価値

- ・富士緒井路を昔の人が掘ったことはすごい。現在も維持していることはすごい。先人の知恵や技を近くに感じることができる。
- ・軸丸地区は活動が活発である。独自のイベントなど地域を活性化しようとしている。心意気を感じる。
- ・広い田がひとつもない。それがおもしろい。上の方に行くと絶景が広がる。

●軸丸棚田エリアの方向性

大切にしたいこと：地元の心意気、手仕事、手作り

キーワード：つなぐ（井路、人、時間 等）

棚田の将来：ベスト→水田として保全

ベター→活用（四季の彩りづくり、かぼす、あじさい、ひまわり、すいせん、コスモス 等）

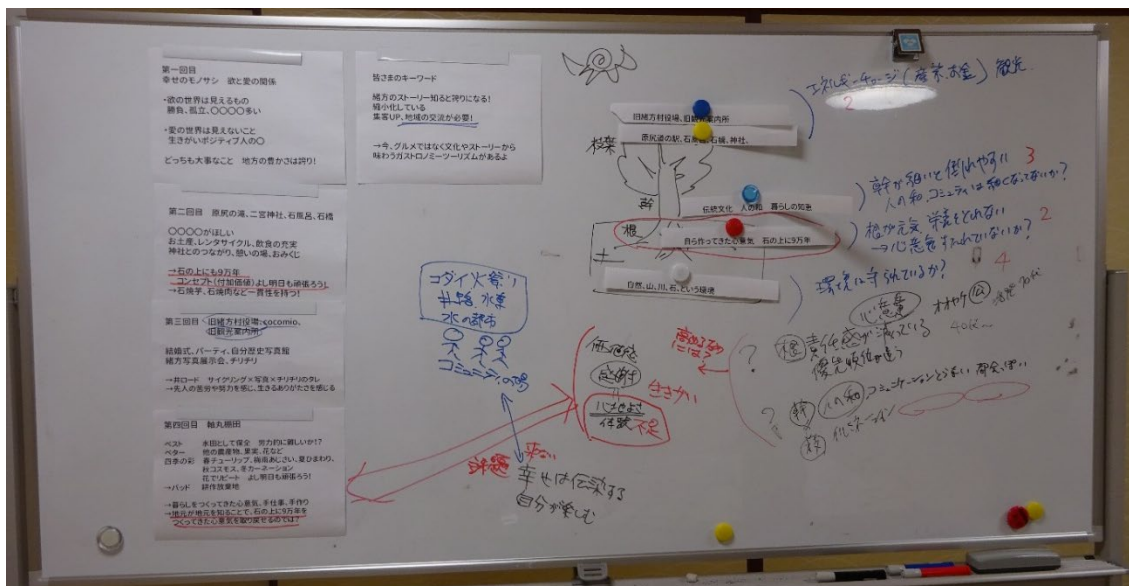
バッド→耕作放棄地

関係人口：地元が地元を知る（おせったい、お手伝い、生きがい）小学生からお年寄りまで

第5回 WS 全体のまとめ（令和6年12月18日開催）

●主な意見

緒方の根っこについて	心意気と人の輪はどうすれば高まっていくのか？	石の上にも9万年
<ul style="list-style-type: none"> <li>・40代より下の世代の責任感が減っている</li> <li>・カリスマ性がある方が減っている</li> <li>・一方で、優先順位はその人によって違う</li> <li>・人の輪、コミュニケーションを取らない</li> <li>・考え方が都会っぽくなっている</li> <li>・70代のメンバーが引っ張ってくれた</li> <li>・枝豆祭り、イルミネーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・価値観の違い、感謝、承認欲求</li> <li>・幸せは伝染する</li> <li>・地域行事等の体験不足が問題なのでは？</li> <li>・そもそも来ない方が多い</li> <li>・自分が楽しむことを心がける</li> <li>・地域に居心地がいい</li> <li>・コダイを初めて見たとき感動した、涙が出そうになった</li> <li>・井路、水車があるから緒方に住むことを決めた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水に流せる町 南島原市の紹介</li> <li>・石、水のコンセプトで付加価値をつける</li> <li>・外向けだけではなく、内側（緒方の人）にもコンセプトを浸透</li> <li>・内も外も元気になる</li> <li>・根と幹がどうにかならないと枝葉はどうにもならない</li> <li>・自分自身が楽しんでいく必要がある</li> <li>・ポジティブな話題で心意気！</li> </ul>



第5回 WS の結果をとりまとめたホワイトボード

## ワークショップの様子



重要文化的景観の価値を学ぶ（第1回WS）



原尻の滝周辺エリア現地確認（第2回WS）



上年野・牧原・辻エリア現地確認（第2回WS）



緒方市街地周辺エリア現地確認（第3回WS）



井上・野尻エリア現地確認（第3回WS）



軸丸棚田エリア現地確認（第4回WS）



軸丸棚田エリア現地確認（第4回WS）



全体のまとめ（第5回WS）

令和7年(2025)9月 発行

## 重要文化的景観「緒方川と緒方盆地の農村景観」整備計画

編集・発行 豊後大野市教育委員会

〒879-7135 大分県豊後大野市三重町内田 880 番地

豊後大野市資料館ジオパークミュージアム

TEL : 0974-24-0040 FAX : 0974-24-0041

編集・協力 合同会社まちづくり事務所 まちもり

〒870-0024 大分県大分市錦町 2 丁目 4-21

